

謎の氏族

は

た

し

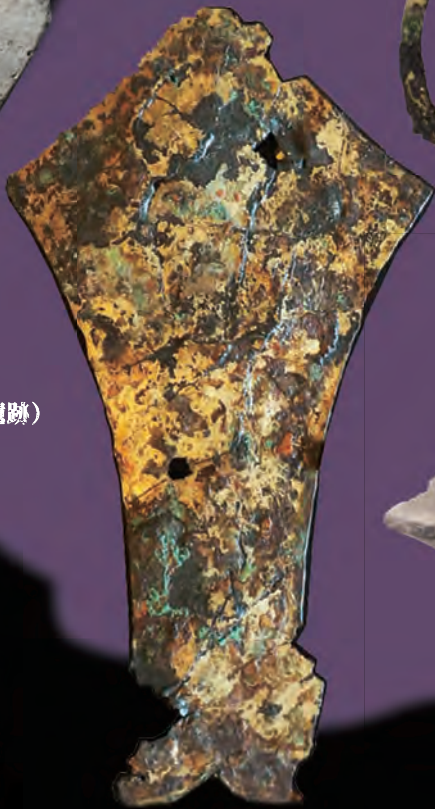
秦

氏

～ 考古学からみたその実像 ～



「秦」刻書須恵器
(赤穂市 有年牟礼・山田遺跡)



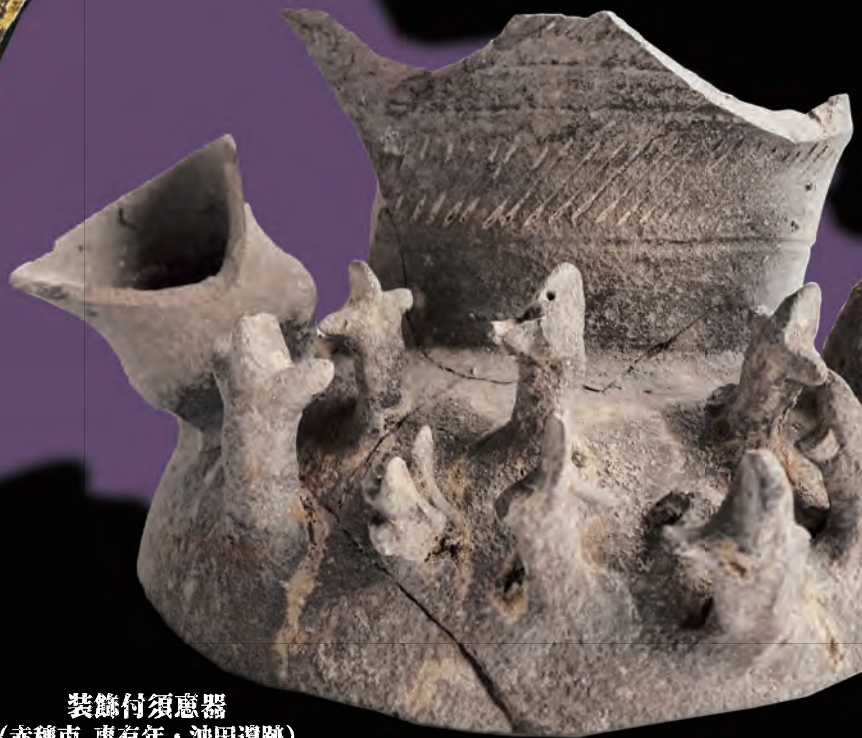
金銅製冠もしくは杏葉
(相生市 陸・狐塚遺跡)



金銀龍文帯金具 (レプリカ)
(加古川市 行者塚古墳 加古川市教育委員会蔵)



馬 鐙
(たつの市 長尾タイ山1号墳
たつの市教育委員会蔵)



装飾付須恵器
(赤穂市 東有年・沖田遺跡)

会期 9/11 (水) → 12/2 (月)



謎の氏族

秦氏

～考古学からみたその実像～

現在の赤穂市・相生市・上郡町が属した旧赤穂郡。そこに1,000年以上前、赤穂郡を治める役人として活躍した氏族「秦氏」がいました。

「秦氏」はみずから「中国大陸に起源をもつ渡来人」とし、山背国太秦（現在の京都府京都市）を本拠地として日本各地へ中国大陸・朝鮮半島の先端技術を伝え、各地で開発・治水などに携わったとされています。



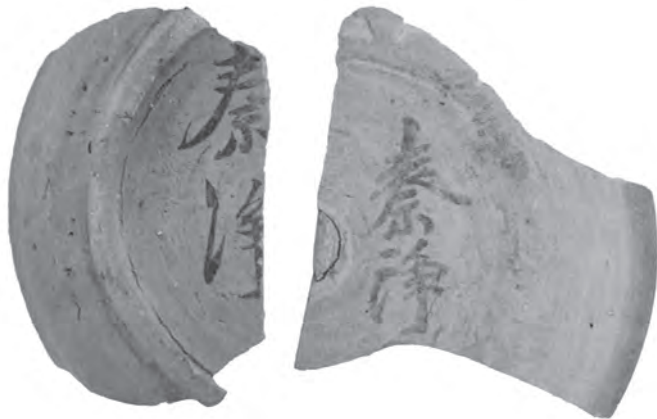
角杯
(太子町 亀田遺跡出土
・兵庫県立考古博物館蔵)



双はそう
(加古川市 池尻2号墳出土
・加古川市教育委員会蔵)



旧赤穂郡に特徴的な「祇園塚型横穴式石室」
(赤穂市・野田2号墳)



「秦浄」墨書土器
(豊岡市 袴狭遺跡出土・兵庫県立考古博物館蔵)

しかし、こうした「秦氏」と呼ばれた人々が、いつどこからやってきたのか、どのような人々であったのかについては明らかになっていません。現在、考古学分野からも「秦氏」の実態に迫る研究が進められています。

今回の展示では旧赤穂郡や周辺地域に存在する「渡来系」とされる遺物や遺構から、旧赤穂郡に渡来した謎の氏族「秦氏」について考えます。

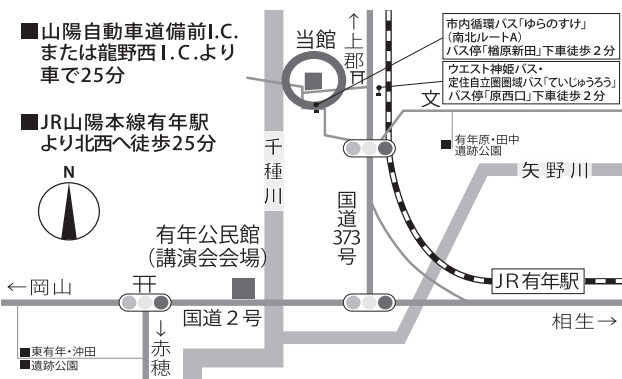
記念講演会開催！

10月20日(日) 「播磨の秦氏

—考古学からわかることとわからないこと—

講師：中久保辰夫氏(京都橘大学准教授)

講演会会場は有年公民館(赤穂市東有年439-1)とありますので、ご注意ください。



赤穂市立有年考古館

〒678-1181 兵庫県赤穂市有年榎原1164番地1

TEL・FAX 0791-49-3488

入館無料

- 開館時間■ 10時～16時(入館は15時30分まで)
- 休館日■ 火曜日
- Webサイト■ 「赤穂市立有年考古館」で検索!